

人が集い、つながる仕組みを ヒトトキミキってこんなところ！

＼ 挑戦を応援！ ＼



キッチンスペース、物販スペースを備える1日からでも利用可能なスペース

＼ 新しい働き方を支える！ ＼

リモートワークや勉強、カフェなどに利用できる快適なスペース



コワーキングスペース

＼ 子どもから高齢者まで交流！ ＼



ふらっと立ち寄って、ゆったり過ごせる交流スペース

フリースペース

＼ のびのび遊べる！ ＼

絵本や遊具がそろった、自由に遊べるスペース



プレイパーク

他にも、オンラインを活用し、行政サービスを身近に利用できる行政ステーションも整備予定！

特別対談

「住み続けたい」選ばれるまちへ 団地再生への挑戦

問(市)縁結び課 地方創生係

人口減少や高齢化、空き家の増加など、全国のオールドニュータウンがさまざまな課題に直面する中、市では、全国初となる地域・企業・行政が連携した団地再生の取組を進めています。
今回は、仲田一彦市長をはじめ、大和ハウス工業株式会社 神田昌幸執行役員、一般社団法人みらまち緑が丘・青山推進機構 前川厚行理事長、三宅仁見副理事長の4名が集まり、団地再生への思いを語りました。

なぜ今、団地再生が必要なのか

仲田市長

昭和40年代の高度経済成長期に、都市部に通うための郊外型の住宅団地の開発が進みました。しかし、開発から50年以上が経過し、「人口減少」「高齢化」「空き家」などが非常に大きな課題となっています。特に、運転免許証を返納し、利便性の高い都市部のマンションに転居するなど、地域外へ移り住む方が多くなり、まちの活力の低下が進んでいます。そこで、本市では大和ハウス工業と連携して、「住み慣れた地域でい

①「ヒトトキミキ」は、

多世代の交流を生み出す拠点

仲田市長

「ヒトトキミキ」は、単なる人が集まる場所ではなく、「共におきなう、つなぐ、はぐくむ」をコンセプトとした施設です。多世代が交流し、支え合いながら、新たなつながりや活動はぐくむ地域の拠点として位置づけています。人と人とのつながりが生まれ、地域の魅力を高めることで、「住み続けたい」「訪れたい」「関わりたい」と思えるまちをつくるための拠点と考えています。

つまでも住み続けられるまち」づくりに取り組んでいます。

その仕組みとして、子どもの独立などを機に、親世帯が地域内の新たな住宅へ住み替え、空いた住宅に子育て世帯が移り住む、そのような住み替え(住継ぎ)の循環づくりを大和ハウス工業と共に進めています。

団地再生には、次の3つの要素が必要だと考えています。

- ① 多世代の交流を生み出す拠点
- ② 団地再生の推進に必要な組織
- ③ 住継ぎの仕組みづくり

これら3つの要素が、三木市に新たな魅力を生み出し「選ばれるまち」となるを考え、このたび、三木市多世代交流施設「ヒトトキミキ」を整備しました。

神田執行役員

「ヒトトキミキ」の建設にも関わらせていただいた大和ハウス工業は、指定管理者として施設運営を担っています。

「ヒトトキミキ」のコンセプトの一つである「おきなう」では、子育て支援やコワーキングスペースなど、これまで地域になかった「場」を設け、日々の暮らしを支えたいと考えています。

また、人と人、人と地域を「つなぐ」さまざまなサービスを提供し、イベントなどを通じて、世代を超えたつながりを「はぐくむ」ことで、新たな交流や支え合いが生まれる場所をめざしています。

5月1日のオープン以降、市内外から多くの皆さんにお越しいただいています。これから地域に愛される施設づくりに努めてまいります。





「ヒトトキミキ」ができたことは、地域の皆さんにご理解いただいていると思います。これから、団地再生の次のステップへ進むための拠点であることを、私たちもさらに発信していかなければなりません。

今まさに、**団地を再生する**ということが動き出し、さまざまな課題も見えてきています。住み慣れた地域で安心して住み続けられる**住継ぎの仕組み**の実現に向け、チーム三木で取り組んでいきます。

③住継ぎの仕組みづくり 神田市長

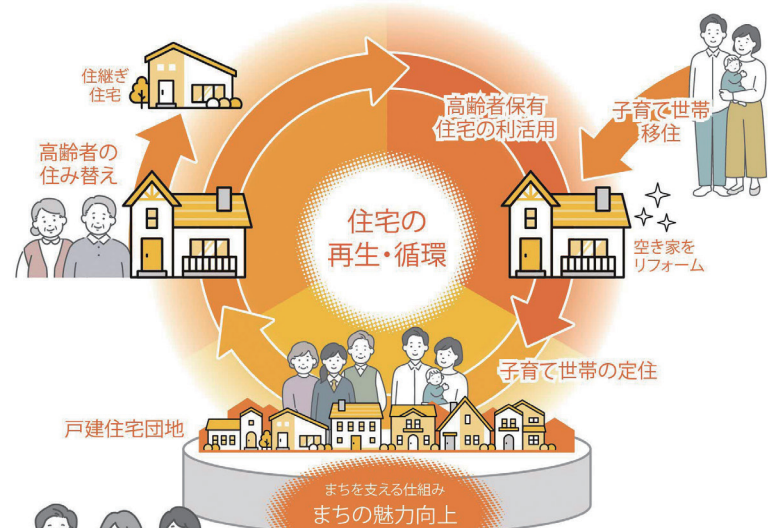
神田執行役員

今後も活気と魅力ある地域であり続けるためには、新たな世帯を迎えることに加え、今、住んでいる方が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を整えていくことが大切です。

「住み継ぐ」「住み替える」といった循環、例えば、子どもの独立などにより、現在の住まいが広く感じられるようになった世帯が地域内で住み替え、空いた住宅に新たな世帯が移り住む。そのような、**世代が循環し、地域の活力を維持していく仕組みづくり**を進めていきたいと考えています。

大和ハウス工業は、所有している土地を地域のためにどのように活用できるかを常に考えながら取組を進めています。例えば、「ヒトトキミキ」の隣には、「コラン」という小さな胡蝶蘭を育てる当社の拠点がありません。そこでは、障がいのある方を含め、地域の皆さんに働いていただいています。

また、私たちは他地域でも住み替えの仕組みづくりに取り組んでいます。そこで培った成功事例やノウハウ



引用：大和ハウス工業株式会社リブネスタウンプロジェクト カタログ



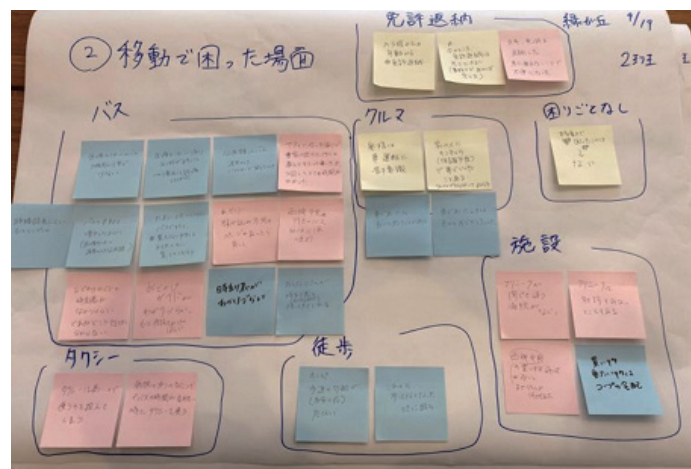
②団地再生を支える組織
みらまち緑が丘・青山推進機構

前川理事長

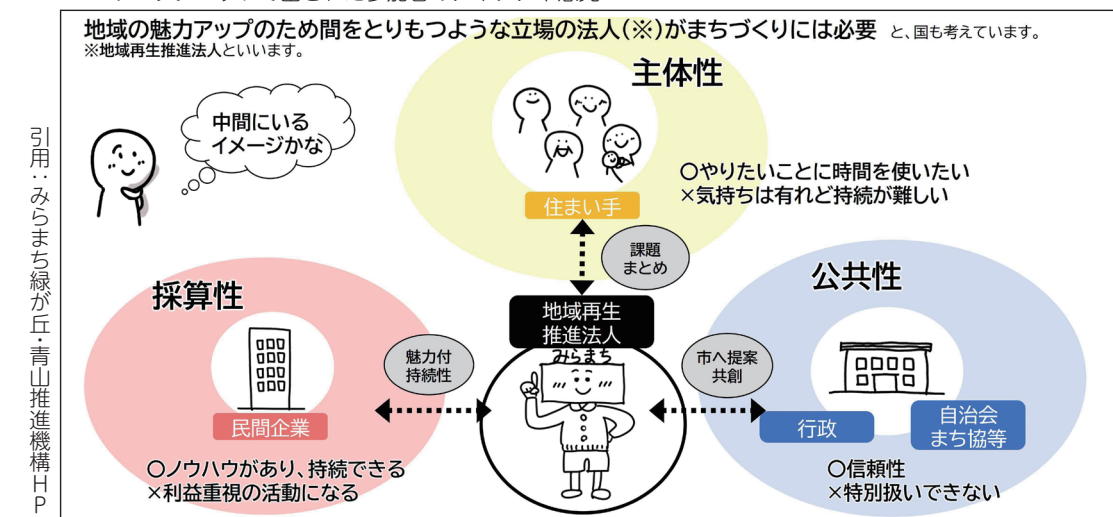
みらまち緑が丘・青山推進機構（以下、みらまち）は、令和7年6月、**全国第1号の「団地再生を目的とした地域再生推進法人」として認定**されました。私たちは、地域の声を集め、住民・行政・企業・地域団体をつなぐ役割を担っています。

2年ほど前から、ワークショップやアンケート調査を重ね、地域の皆さんの声や思いを集めてきました。その声をもとに、行政への提案や地域の皆さんへのフィードバックを行いながら、「地域の皆さんにとって本当に必要なことは何か」を考え続け、地域づくりに生かしています。

例えば、「運転免許証を返納した後の移動手段を確保してほしい」といった地域の声や課題を受け止め、行政や企業と連携しながら、具体的な提案や課題解決へとつなげていくことが私たちの使命です。



▲ワークショップで出された参加者のアイデアや意見



人がどこに住むかは自由ですが、住まいは、交通の利便性や買物環境だけで選ばれるわけではないと思っています。私たちは、「この地域に住みたい」と思わせる魅力は何かを常に問い続けています。その魅力の一つは、地域のコミュニティや人と人の温かなつながりだと思っています。

住民、行政、そして企業が連携して取組を進める中で、みらまちのような互いをつなぐ中間的な組織があることは、地域にとって大きな力になります。私たちも行政と共に伴走する立場として、地域の皆さんやみらまちの活動を支えながら、地域の魅力向上につなげていきたいと考えています。



ここからはじまる新たな一歩

仲田市長

「ヒトトキミキ」を市内全域はもちろん、市外からも多くの方に訪れていただける施設にしたいと考えています。まずは一度お越しいただき、「ヒトトキミキ」が単なる多世代交流施設ではなく、地域のこれからにつながる拠点であることを知っていただきたいと思います。

前川理事長

実際、「ヒトトキミキ」をどう利用すればよいのかわからない」や「運転免許証を返納して、行く手段がない」といった住民の声を聞きます。

三宅副理事長

「ヒトトキミキ」までバスで行けるようになれば、より多くの方が気軽に訪れられるのではないかと考えています。

また、一人暮らし世帯が増える中、外出する機会が少なくなりがちな方にも、「ヒトトキミキ」をきっかけに外へ出て、人との交流を楽しんでいただきたいと思います。

そのためには、移動手段の充実に

加え、「ヒトトキミキ」の魅力や利用方法を分かりやすく発信していくことも大切だと考えています。

仲田市長

前川さん、三宅さんからお話がありました。市としても、公共交通事業者などと連携しながら、できるだけ多くの方が利用しやすい環境づくりを進めていきたいと考えています。



連携して進める団地再生

三宅副理事長

少子高齢化や人口減少、消費活動の低下により、店舗の閉店など、地域の暮らしに影響する動きが各地で起きています。だからこそ、問題が深刻化する前に、先を見据えて団地再生に取り組むことが大切だと考えています。

課題が見えにくい段階では、その必要性を地域の皆さんに理解していただくことは簡単ではありません。

しかし、課題が深刻化してからでは遅いため、丁寧に説明し、理解を広げていくことが必要です。

課題は多く、決して簡単ではありませんが、一つ一つ着実に取り組んでいくことが重要だと考えています。



前川理事長

まだ、「みらまちとは何をする組織なのかわからない」と思われている方も多いと思います。まずは私たちの活動を知っていただき、地域の皆さんにとって身近で気軽に相談できる存在になればと思っています。

神田執行役員

移動手段の問題は、このような団地においては、優先順位の高い社会課題だと思います。私たち民間企業も力を合わせ、「ヒトトキミキ」を拠点に、みらまちや市と共に課題解決に取り組んでいきたいと思っています。

また、ここでの取組が全国のモデルとなり、日本が抱える課題の解決にもつながると考えています。



チーム三木で進める 全国初の団地再生へ

仲田市長

「ヒトトキミキ」がオープンして終わりではなく、ここからが団地再生の新たなスタートです。今後は、この施設をさらに魅力ある拠点として発展させていくためにも、大和ハウス工業が進める住継ぎの仕組みの考え方は非常に重要だと考えています。魅力ある住宅を計画的に整備し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境をつくる。そして、新たに「選ばれるまち」へ発展させていくことが、次のステップになると考えています。

特に大切なのは、計画的にまちづくりを進めることです。昭和40年代に開発されたニュータウンでは、同世代が同時期に移り住んだことで、現在、急速な高齢化という課題に直面しています。人口減少社会における新たなまちづくりには、世代間バランスを考えながら、段階的に整備を進めていく必要があります。

そのためには、地域の皆さんにも、まちの課題を身近なものとして捉えていただき、ともに課題解決に取り

組んでいくことが大切です。

今後は、この施設を活用し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みづくりを進めていきます。そして、このまちに住みたいと思っただけの魅力あるまちづくりを推進し、郊外型戸建住宅団地における多世代交流施設を核とした全国初の取組として、三木市が全国モデルとなるような団地再生に挑戦していきます。

ライトアップで魅力UP！

昼間とはまったく違う夜のヒトトキも素敵！

夜の「ヒトトキミキ」は優しい灯りに包まれます。落ち着いた雰囲気を楽しみたいときにおすすめです。



ここから広がる、新しいつながり

「ヒトトキミキ」では、さまざまなワークショップや季節に合わせたイベントを開催しています！新しい出会いや発見があるイベントをこれからも開催していきます。ぜひ、あなたも「ヒトトキミキ」で楽しいひとときを過ごしてみませんか。

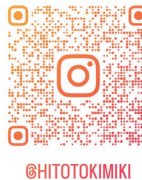


多世代交流施設HITOTOKIMIKI「ヒトトキミキ」

三木市志染町青山7丁目1-19
開館時間：午前9時～午後8時

☎70-9320
休館日：第4水曜

5月の施設利用者数
約8,300人



◀イベント情報は
こちら

@HITOTOKIMIKI



指定管理者
大和ハウス工業
井止勇一さん